物語スペインの歴史

海洋帝国の黄金時代

岩根圀和著（出版：中公新書　出版年：2002年4月25日）

纐纈崇矩

目的

- **スペインとは**

太陽と情熱の国と思われるが、、、

太陽の国でも情熱の国でもなく、人々は親切だが寡黙で不愛想、そして働き者

目的

- **本書目的**

・8世紀にジブラルタル海峡を押し切り雲霞の如く押し寄せてスペインを支配下に収めたいイスラム襲来の章から始まる

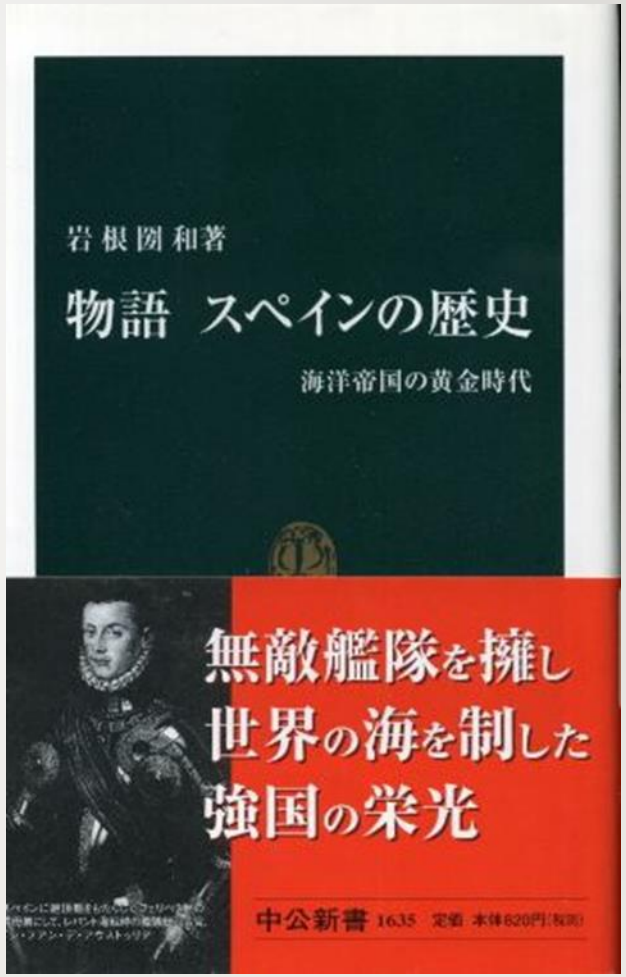
・その後800年近くに及ぶ「国土回復運動」

・16世紀のレパントの海に熾烈な戦いを繰り広げた「レパント海戦」

スペインの有為転変を運命づけられた数々の主要事件を選んで切り取る

内容

- 第一章　スペイン・イスラムの誕生
- 第二章　国土回復運動
- 第三章　レパント海戦
- 第四章　捕虜となったセルバンテス
- 第五章　スペイン無敵艦隊
- 終　章　現代のスペイン



内容

- 第一章

・ジブラルタル上陸　・イベリア半島侵略

- 第二章

・愚鈍な王ボアブディル　・グラナダ開城

- 第三章

・司令官ドン・ファン・デ・アウストリア　・開戦、正午、午後１時半

第一章　スペイン・イスラムの誕生

- **ジブラルタル上陸**

北アフリカ総監督ムーサがイベリア半島への遠征軍（志願兵）を派遣

西暦711年季節は4月下旬のため海上ではまだ肌寒さを感じる時期

イベリア半島

第一章　スペイン・イスラムの誕生

- **スペイン侵略**

指揮官ターリック・ブン・ジアードが「ターリックの岩」に上陸

西ゴート王国領セウタの孤塁を破り二年足らずでスペインを支配下に収めた

第一章　スペイン・イスラムの誕生

- **スペインの語源**

ヨーロッパの果てに位置する野蛮の土地イベリア半島はエプロ河畔にできた街をイベリアト呼んだ

スペインの語源はケルト語で「ウサギの国」、「遠い国」の「イエスパン」にあたる

第一章　スペイン・イスラムの誕生

- **ローマ帝国支配下のスペイン**

権力争いに巻き込まれたスペイン庶民がこぞって救いの手を求めイスラム領に渡る

第一章　スペイン・イスラムの誕生

- **イベリア半島侵略の原因**

ローマの権力争いから逃れるためイスラム領へ渡る

当時船は高価なものであり丸太を切り出ししがみついて海を渡るほかなかった

冷たい海水に力尽き亡くなる者が増加していった

第一章　スペイン・イスラムの誕生

- **イベリア半島侵略の原因**

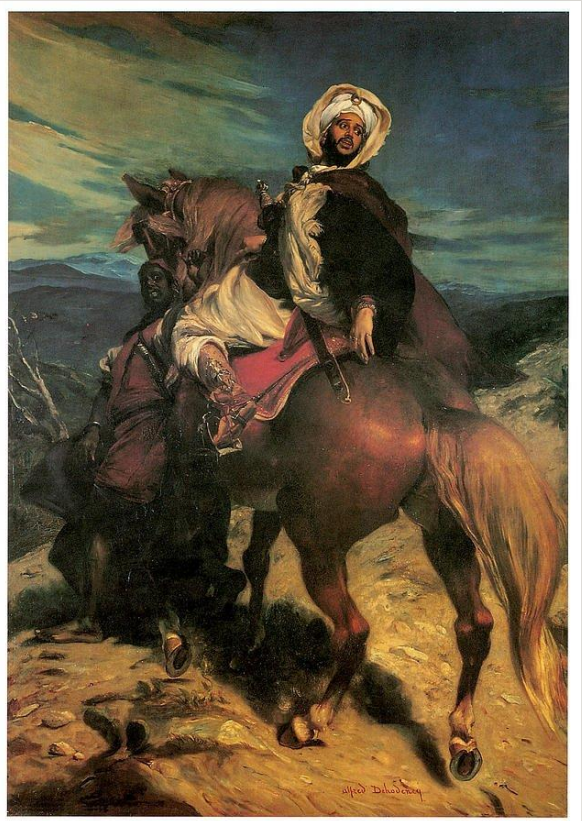
海を渡る者が亡くなることが増加

北アフリカ総督ムーサに窮状を訴え西ゴートからスペインを開放するように要求し、7000人の兵士を出撃させスペインを支配下にする

第二章　国土回復運動

- **愚鈍な王ボアブディルとグラナダ**

モハメッド11世ボアブディルが即位



グラナダのアルアマ地方へ進軍し田畑を踏みにじり寺院・家屋を破壊し略奪の限りを尽くす。殺戮の巷と化した村々は、まるで巨大な墓場のごとき廃墟となった。

第二章　国土回復運動

- **カトリック両国王フェルナンド**

ボアブディルはカトリック両国にとって格好の獲物であり、血縁関係から権力の奪還が非常にたやすいものであった

カトリック両国王のイサベルとフェルナンドはたちまちグラナダを奪った

第二章　国土回復運動

- グラナダ開城

フェルナンドはイスラエル軍からの攻撃を十年の間持ちこたえる

籠城戦も食料の不足とともに限界に達しグラナダを開城することとなった

キリスト教徒の手に引き渡され取り決めを承諾した

第二章　国土回復運動

- **フェルナンド、イスラエル軍の取り決め**

1、イスラム教徒は身分を問わず完全に身柄を保証され、その自由を保つとともに財産、武器及び乗馬の所有権を保持する

2、宗教の自由、寺院や宗教施設はそのまま存続させる。

3、風俗、言語、習慣、服装はそのままなるべきこと。

4、法律は同人種の長官によって執行されるべきこと。

5、キリスト教徒とイスラム教徒の間の争いは合議制によって決めるべきこと。

第二章　国土回復運動

6、従来おさめている以上の租税は課されない。

7、キリスト教徒はむやみにイスラム教徒の家に闖入あるいはイスラム教徒を侮辱する行為をしてはならない。

8、イスラムの捕虜はすべて釈放されること。アフリカへ渡る者は一定期限内に出発することを許される。

9、イスラムに改宗したキリスト教徒は復宗を強要されない。

第三章　レパント海戦

- **レパント海戦**

1571年10月7日にレパント沖でトルコ・オスマン帝国海軍とスペイン・ヴェネツィアの連合軍が衝突

隠れイスラム教徒が生活条件悪化により反乱を起こしオスマン帝国への支援を求め安全保障上看過できなくなったことが原因

第三章　レパント海戦

- **レパント海戦有能指揮官**

スペイン軍の有能指揮官ドン・ファン・デ・アウストリアによって指揮された。

第三章　レパント海戦

- 開戦

・**正午**

レパント海戦は正午に開戦

先行連合艦隊がオスマン艦隊に砲撃を開始し、オスマン軍に多くの損害が出た

第三章　レパント海戦

- **午後1時30分**

オスマン帝国軍は当時の伝染病や物資搬入困難や負傷者が非常に多かったため士気が低下し戦闘約1時間30分で逃亡を始める船がでて戦力が低下

第三章　レパント海戦

- **レパント海戦の結果**

オスマン帝国の大敗に終わった

海戦の勝利からヨーロッパに大国スペインの名大きく広めるきっかけとなった

終章　現代のスペイン

- **スペイン無敵艦隊**

レパント海戦後勢力を拡大した大国スペインは無敵艦隊と呼ばれる

それに伴い王位継承戦争が勃発し国内対立から植民地を失い**決定的な凋落**が始まり、内戦により力を弱めていった。

終章　現代のスペイン

- **現代のスペイン**

「スペイン市民戦争」1936年7月から1939年3月

国民同士が武器を取って互いに殺しあう不幸な時期があった

国内選挙の結果左派の勝利により反対した右派の暴動が起こった

終章　現代のスペイン

- **「スペイン市民戦争」の原因**

左派の諸政党が選挙戦で勝利を収め共和国政府が誕生した（1936年2月）

7月18日の反乱軍蜂起の宣言によりスペイン全土に蜂起の連鎖が起こった

著者はスペインの内情は多くが不安定にあり、内戦により形作られた悲劇の国であると述べている。

まとめ

- **スペインの過去と現代**

スペイン市民戦争では政治権力争いが原因で暴動・暗殺が起き国内全域を巻きこむ内戦となった

近年では**テロリズム**という形に

まとめ

- **ETA（分離主義過激組織）の誕生**

政府独裁政治への不満が分離主義過激組織を生む

ETA（*Euskadi Ta Askatasuna*：エウスカディ・タ・アスカタスナ）

1959年に結成されスペインやフランスのバスク人居住地域を一つの独裁国家として分離させることを目標としている。

まとめ

首相暗殺にとどまらず非人道的に殺害を繰り返す過激派組織である

2000年に入ってからの犠牲死者は776人に及ぶ

自信たちの主義主張に反対する政治家、治安警察や軍人、そのほかに自分に不都合な邪魔者を抹殺

まとめ

- **テロリストを英雄視**

反政府デモを行う団体の中にテロリストを英雄視して集会で公然と賞賛演説をする議員もいる

現代のスペインではETAがテロの回数と犠牲者の数を着実に伸ばしスペインが悲劇の国であることを思い出させさせる

まとめ

- **著者の考え**

王朝の綾錦の歴史を記述するのではない

↓

興味深い大きな事件のいくつかを取り上げ物語る

↓

スペインの悲しい歴史を理解させる

参考資料

- スペイン画像　https://www.bing.com/images/search
- レパント海戦　https://www.bing.com/images/search
- ドン・ファン・デ・アウストリア　https://kotobank.jp/word/
- スペイン市民戦争　https://www.y-history.net/appendix/wh1504-112.html
- ETA　http://www.moj.go.jp/psia/ITH/organizations/europe/ETA.html

ご清聴ありがとうございました